Meiji 駿台倶楽部会報

明治大学野球部ＯＢ会ニュース

発行　駿台倶楽部
会長　吉川　芳登
府中市若松町５－６－１
明治大学野球部合宿所内
電話番号(042)313-4134
ＦＡＸ番号(042)364-5605

85年ぶり

戦後初3連覇

10勝１敗１分
完全Ｖで決めた

▲早大に連勝し、３連覇を決めてマウンドで喜びを爆発させる明大ナイン

全日本は準Ｖも

歴史の扉が開いた！令和５年度の春季リーグ戦は４月８日に開幕。東大戦には苦戦しながら連勝、慶大には１敗を喫したが勝ち点を挙げ法大、早大に連勝。勝ち点４を挙げ立大戦を残し第６週で優勝を決めた。立大にも連勝して10勝１敗１分の完全優勝。１９３７年（昭12）～38年にかけて４連覇を果たしているが、それに次ぐ85年ぶり、戦後初の３連覇となった。

ベストナインには村田賢一投手（４年＝春日部共栄）小島大河捕手（２年＝東海大相模）堀内祐我二塁手（４年＝愛工大名電）上田希由翔三塁手（４年＝愛産大三河）飯森太慈外野手（３年＝佼成学園）の５人が選ばれ、首位打者には打率・４２６をマークした飯森が獲得した。

第72回全日本大学野球選手権大会は２回戦から出場。日体大（首都）、準々決勝の仙台大（仙台６大学）準決勝の白鷗大（関甲新）の３試合を完封で下し決勝に進出。７度目の日本一を目指したが青学大に敗れ無念の準優勝に終わった。しかし１、２年生の若い力が全国の舞台を経験、秋に向けて大きな財産となった。また７月15日には都内のホテルで３連覇の祝賀会が行われ関係者ら７００人が祝福した。

歴史動かす〝上田組〟

戦後初の３連覇　史上２度目４連覇へ

チームとしては戦後初となるリーグ3連覇。〝上田組〟と言われる上田主将がチームをまとめ主砲として先頭に立った。85年ぶりに歴史が動き更なる常勝軍団を目指す。

楽な試合は１つもなかった

第6週で優勝を決めた。喜ぶナインの中で、上田はホッとした表情を作った。「全試合必死にやってきた。楽な試合は1つもなかった」8勝1敗1分、勝ち点4で立大戦を残しての3連覇に上田はそう言ってシーズンを振り返った。

〝感謝の念〟勝利よりも大事

前年、村松主将（現中日）を中心に春秋連覇。今年へのプレッシャーは相当なものと想像できる。そんな中、練習始めの1月9日、球場左中間にある島岡御大の胸像を前に上田はこう切り出した。「この環境で野球ができる。支えてくれている人も多くいる。そのすべてに感謝してやっていきましょう」島岡監督も常に口にしていた〝感謝の念〟。上田は勝つこと以前に、感謝という二文字を胸にグランウンドにいた。

今年はドラフト候補としての重圧もある。主将としてリーダーの立場であっても結果を求めなくてはならない。これまでも他校の同じ立場の選手を見てきたが、ほとんどが不振に終わっている。しかし上田は打率・372（3位）3本塁打（2位タイ）打点12（2位）と3部門で見事な成績を残した。村松前主将から受け継いだ「下級生が力を発揮できる環境作り」を受け継ぎ、その成果は今井、内海、木本ら下級生の活躍につながった。

3連覇を決め、ナインに胴上げされる上田主将

秋へ再出発　４連覇＆日本一

3連覇の達成感に浸る間もなく、全日本大学野球選手権では決勝で青学大に零封された。上田も無安打に終わり「優勝できないんだったらどこで負けても一緒。部員ともう一度話し合って、秋はリーグ優勝と神宮大会連覇を狙いたい」と前を向いた。田中監督は「上田組が成長してくれたお陰で3連覇ができた。秋は4連覇というより、上田組の春秋連覇を」と上田のリーダーシップを絶賛した。人前で話すことが苦手なタイプだったが、オープン戦でも試合終了後はベンチ前でナインに延々と語りかける姿があった。

「部員ともう一度話し合って」

秋は史上2度目の4連覇がかかる。他校も打倒メイジ！に全力で挑んでくる。上田組の成長に足踏みは許されない。

村田　今季３勝も〝負けない男〟健在

今季も大黒柱として投手陣を支えた村田

㉑…打の中心が上田なら投の主役は村田。今季は3勝ながら慶大1回戦では1安打零封した投球は圧巻。打線の援護なく引き分けたが、その後も安定した投球を見せた。通算でも12勝1敗と負けない男は健在。学生日本代表にも選ばれ、常に成長している。大学選手権決勝で敗戦投手になったのも秋への発奮材料。秋もエース背番「11」を背負って神宮のマウンドに立つ。

前回の４連覇

37年（昭12） 当時は各校2試合の10試合制で行われた。春は9勝1敗で優勝を飾った。秋は児玉利一（大分商）が4勝、清水秀雄（米子中）が3勝をマーク、8勝1敗1分で六大学史上初の春秋連覇を達成した。

38年 春は7勝3敗で早大と同率となり、優勝決定戦を行った。清水が早大を完封、リーグ戦では連敗した宿敵を下し3季連続Vを達成した。秋は清水―児玉の黄金リレーなどで7勝1敗2分の成績で4連覇を達成した。エースは完投が当たり前の時代、谷沢梅雄監督の分業制采配で他校を寄せ付けなかった。

同大会の決勝６戦全勝も

青学大に完敗　４冠の夢消滅

田中武宏監督「汚点を残してしまった」

全日本大学野球選手権大会で準優勝に終わった㊤決勝で敗れ、スタンドにあいさつするナイン

▽決勝　（神宮）
明大（東京六大学）　000 000 000 0｜0
青学大（東都大学）　001 100 000 0｜4

散発７安打零敗

試合が終わると田中武宏監督、ナインはスタンドに向かって深々と頭を下げた。悔しい完封負け。初回から歯車はかみ合わず、最後までペースを握れなかった。

満を持して先発した村田が青学大につかまる。1回、死球から連打と内野ゴロで2点。その後も追加点を奪われ藤江、蒔田とつないで防戦したが打線が散発7安打に封じられホームが遠かった。

「こちらがやりたいことを、先にやられてしまった。選手の頑張りを見てきただけに勝たせられず、本当に申し訳ない」田中監督は試合後の会見で絞り出すように話した。これまで同大会の決勝戦は6戦全勝。初めて敗れ「汚点を残してしまった」と責任を一身に背負った。

中3日で先発した村田も「なにか気持ちが入っていかないというか、相手のことを考えすぎたりして自分に負けていたと思う」と振り返った。精密機械と言われる制球力のある村田にしては珍しい1回の死球に「嫌な予感がした」（田中監督）とも言った。しかし「村田は責められない」とここまでチームを引っ張ったエースを称えた。

打線、そしてチームの顔である上田主将も無安打に終わり唇をかみしめた。「悔しい。秋に向けて選手とやり直します」と前を向いた。

下級生に収穫も

悔しさの中に収穫もある。準決勝で先発し全国1勝をマークした2年の久野。1年生ながら5番一塁手でスタメン出場した内海、DHで起用された2年の木本。榊原外野手（1年）、浅利投手（3年）ら全国の舞台の経験はきっと秋に実となる。2年生で守りの要・捕手としてチームを支えた小島は打率・500（規定打席不足）で敢闘賞も受けた。年間4冠の夢は消えたが、V4へ神宮大会連覇へ明治は前へ進む。

▽2回戦　（神宮）
日体大（首都大学）　000 000 000 0
明大（東京六大学）　160 000 000 X｜7

主砲・上田が３ラン

△2回戦＝日体大◇村田―久野のリレーで7回を零封。打線も上田の3ランなどで7得点し7回コールド。

▽準々決勝　（神宮）
仙台大（仙台六大学）　000 000 000 0
明大（東京六大学）　000 050 00X｜5

５回に５点集中打!!

△準々決勝＝仙台大◇先発蒔田が7回1安打、浅利、石原と繋ぎ零封。打線も5回に集中打で5点を奪った。

▽準決勝　（神宮）
明大（東京六大学）　000 100 104
白鷗大（関甲新学生）　000 000 000｜6

初先発久野５回零封

△準決勝＝白鷗大◇久野が初先発し5回を零封。その後3投手のリレーで零封。打線も6点を挙げ快勝した。

日本代表４人選出　２大会連続Ｖ貢献

◇第44回日米大学野球（7月7日～13日、米国）に村田賢一、蒔田稔両投手、上田希由翔、宗山塁両内野手の4選手が日本代表として出場。3勝2敗で2大会連続で優勝した。

扇の要・蓑尾の後継者

全試合スタメン 率.282 本2 点7

小島攻守で輝き

高校2年秋から捕手

全試合にスタメンマスクをかぶり打率.282、2本塁打、7打点を挙げベストナインを獲得したのが小島。蓑尾（現Honda熊本）が抜けた穴を誰にするか。田中監督は経験は浅いが打撃も含めた総合力を買って小島に守りの要を任せた。

「初めは不安もありましたが、試合を重ねていくうちに〝やれる〟という自信もつきました」小島はそう言ってシーズンを振り返った。常に投手陣とコミュニケーションを取り、投手のいい部分を引き出すリード。開幕の東大戦は接戦となり、途中で菅原（4年）の助けを借りたが、その後はあわてることもなくどっしり構えて引っ張った。

今季の優勝は下級生（2年生以下）の活躍なくしては達成できなかった。捕手として全試合に出場しベストナインを獲得した小島。法大戦で代打決勝2ランを放った木本圭一（2年＝桐光学園）。1年生ながら慶大戦で代打2ランを放った内海優太（広陵）ら楽しみな選手たちが後押しした。

そもそも捕手になったのは東海大相模の2年秋から。それまで二塁手をこなし、センバツ優勝時も背番号は「4」をつけていた。「（門馬）監督から捕手をやれと言われて。監督から言われたらNOはないですから」と転向した。まだ経験は浅いが売りの打撃も含めてレギュラーをがっちりつかんだ。慶大4回戦、延長10回に放った決勝3ラン。法大2回戦でも貴重な適時二塁打。7打点すべてが内容のあるものだった。「ボク的には早稲田戦のホームランがうれしかったです」という。小島が7番に座ることで、下位打線にもクリーンアップが作れるような重量感あふれる打線となった。大学選手権でも打率・500で敢闘賞を獲得。「残り5シーズン、ずっとレギュラーでいられるよう頑張ります」と伸びしろ十分な男は更なる成長を誓っていた。

大学選手権でも堂々!!打率.500で敢闘賞獲得
「残り５シーズン、ずっとレギュラーで」

下級生が躍動した23年春

慶大4回戦、延長10回に決勝3ランを放った小島

初スタメンで爆発
2年生・今井

…初スタメンで爆発したのが今井（2年）早大1回戦、6番右翼で起用されると打ちまくった。1打席目は投ゴロに終わったが「そのときからボールは見えてました」と3回に回ってきた1死満塁の好機には右翼線へV打となる2点二塁打。その後も適時打、本塁打、右前打と4安打4打点の大活躍。「やっと出番だと。満塁でも緊張することなく打てました」と冷静に話した。不安のあった右肩も回復し「投手もちょっと練習しようかと思ってます」と二刀流にも色気をみせていた。

フレッシュトーナメント優勝を決め記念撮影に納まるナイン

起死回生の逆転弾
2年生・木本

法大1回戦、8回に代打で逆転2ランを放った木本

…法大1回戦、起死回生の逆転2ランを放ったのが木本。1点を追う8回裏2死二塁。代打で起用された木本は150キロ左腕・吉鶴のストレートを中堅左へぶち込んで見せた。「うれしかった。ダイヤモンドを回っている間は支えてくれた先輩に感謝の思いで走ってました」と憎いセリフを吐いた。この勝利で2回戦も連勝。V3へ一気に突き進んだ。

初安打が初本塁打
1年生・内海

慶大2回戦、代打で決勝2ランを放った内海

…広陵から入学したルーキー内海もポテンシャルの高さを示した。慶大2回戦の6回。同点に追いつき1死三塁で代打起用。ここで外角球を左翼ポール際に勝ち越し2ラン。大学初安打が本塁打という内海らしい一打だった。高校時代はU18日本代表の4番を務めた男。大学選手権では5番一塁手としてスタメンでも起用され適時打も放った。秋はレギュラー獲りを狙って連日バットを振る。

弟は２季連続42回目Ｖ

春季フレッシュトーナメントは５月31日に開幕。Ａ組の明大は初戦で東大と対戦したが、９回に何とか追いつき引き分けに。雨天順延と大学選手権があり６月19日に再開。早大と対戦し同点の９回、内海の勝ち越し適時打で勝ちＡ組１位通過を決めた。

優勝戦はＢ組１位の慶大と対戦。同点の７回、中村、千田の長短打で勝ち越し。８回には八十の犠飛で突き放し毛利―郷原―大川とつないで逃げ切った。昨秋に続く２季連続、新人戦最多の42回目の優勝で兄弟Ｖを達成した。

東京六大学2023年春季L Play Back

◇４月８日　神宮第１
東　大000 000 0200|2
明　大010 000 0101X|3
（１回戦　明大１勝）
勝藤　江　１試合１勝０敗
敗平　田　１試合０勝１敗

◇４月９日　神宮第２
明　大300 000 003|6
東　大020 001 000|3
（２回戦　明大２勝）
勝藤　江　２試合２勝０敗
敗鈴木太　１試合０勝１敗
本上　田１号②（松岡）

◇４月22日　神宮第１
慶　大000 000 000|0
明　大000 000 000|0
（１回戦　１分）

◇４月23日　神宮第２
明　大000 003 020|5
慶　大000 100 000|1
（２回戦　明大１勝１分）
勝蒔　田　２試合１勝０敗
敗谷　村　２試合０勝１敗
本広　瀬１号①（蒔田）
　内　海１号②（浮橋）

◇４月24日　神宮
慶　大000 000 140|5
明　大020 000 002|4
（３回戦　１勝１敗１分）
勝小川琳　３試合２勝０敗
敗藤　江　４試合２勝１敗

◇４月25日　神宮第１
明　大00000110 03|5
慶　大00020000 00|2
（４回戦　明大２勝１分）
勝蒔　田　３試合２勝０敗
敗谷　村　４試合０勝２敗
本広　瀬２号②（村田）
　小島河１号③（谷村）

◇４月29日　神宮第１
法　大000 120 010|4
明　大100 020 02X|5
（１回戦　明大１勝）
勝浅　利　３試合１勝０敗
敗吉　鶴　３試合０勝２敗
本木　本１号②（吉鶴）

◇５月１日　神宮第２
明　大100 000 002|3
法　大000 000 000|0
（２回戦　明大２勝）
勝村　田　５試合１勝０敗
敗篠　木　４試合２勝１敗

◇５月13日　神宮第１
明　大103 311 204|15
早　大101 000 200|4
（１回戦　明大１勝）
勝村　田　６試合２勝０敗
敗加　藤　５試合３勝１敗
本熊　田２号①（村田）
　今　井１号①（飯塚橋）
　堀　内１号②（ユエン）
　上　田２号③（中森）

◇５月14日　神宮第２
早　大000 003 000|3
明　大300 010 02X|6
（２回戦　明大２勝）
勝石　原　４試合１勝０敗
敗清水大　３試合０勝２敗
本吉　納２号③（石原）
　小島河２号②（伊藤樹）

◇５月20日　神宮第１
立　大000 000 000|0
明　大010 000 00X|1
（１回戦　明大１勝）
勝村　田　７試合３勝０敗
敗池　田　９試合１勝４敗

◇５月21日　神宮第２
明　大010 403 003|11
立　大010 100 100|3
（２回戦　明大２勝）
勝久　野　２試合１勝０敗
敗　沖　７試合１勝４敗
本上　田３号②（塩野目）

マネジャー兼任・石田
自分以上の力が出せた
立大２回戦３番手登板

…マネジャー兼任の石田が立大２回戦の８回、３番手で登板。１安打を１安打無失点に抑え大きな拍手を浴びた。新チームが始動した昨年秋、田中監督から「マネジャーを手伝ってくれ」と打診され、投手の練習もこなしながら裏方として汗を流した。大役を果たした石田は「みんなから声を掛けてもらい自分以上の力が出せた」と感動の登板を振り返った。

上立大２回戦でマネジャー兼任の石田が登板　下ベストナインを獲得した（左から）飯森、村田、上田、堀内、小島

◇東京六大学野球表彰選手とベストナイン◇

項目	選手名（所属）	票	回
投手	村田賢一（明）	9	初
捕手	小島大河（明）	7	初
一塁手	内海貴斗（法）	11	初
二塁手	堀内祐我（明）	満	初
三塁手	上田希由翔（明）	11	2
遊撃手	熊田任洋（早）	11	初
外野手	飯森太慈（明）	満	初
〃	尾瀬雄大（早）	満	初
〃	栗林泰三（慶）	11	初
首位打者	飯森太慈（明）	率.426	
最優秀防御率	篠木健太郎（法）	防0.68	

※満票は12、回は受賞回数。上田は一塁手で１度受賞

◇東京六大学野球打者成績10傑◇（全日程終了）

	選手名（所属）	打率	試	打	安	点	本
①	飯森（明）	.426	12	47	20	3	0
②	武川（法）	.396	14	53	21	1	0
③	上田（明）	.372	12	43	16	12	3
④	栗林泰（慶）	.352	15	54	19	11	2
⑤	尾瀬（早）	.347	13	49	17	5	1
⑥	熊田（早）	.341	13	44	15	13	2
⑦	堀内（明）	.340	12	50	17	3	1
⑧	吉川（慶）	.333	15	54	18	1	0
⑨	宮崎（慶）	.327	15	55	18	10	0
⑩	中村将（早）	.311	13	45	14	6	1

◇東京六大学野球投手成績10傑◇（全日程終了）

	選手名（所属）	防	回	試	勝	敗	責
①	篠木（法）	0.68	53	7	3	2	4
②	村田（明）	0.80	45	7	3	0	4
③	尾崎（法）	1.28	42⅓	9	4	0	6
④	外丸（慶）	1.37	59	11	3	2	9
⑤	加藤（早）	2.54	49⅔	7	3	2	14
⑥	谷村（慶）	2.55	35⅓	8	2	2	10
⑦	松岡（東）	3.82	35⅓	7	0	4	15
⑧	池田（立）	4.07	48⅔	9	1	4	22
⑨	沖（立）	4.25	29⅔	7	1	4	14
⑩	鈴木健（東）	4.98	34⅓	6	0	4	19

＜東大＝２勝＞開幕戦から苦戦。１回戦は打線が援護できず延長10回、堀内の犠飛でサヨナラ勝ち。２回戦は同点の９回、途中出場の菅原が勝ち越し二塁打で振り切った。

＜慶大＝２勝１敗１分＞初戦は引き分け。２回戦は代打内海が決勝２ラン。３回戦に敗れ４回戦は延長10回、小島が起死回生の決勝３ラン。何とか勝ち点を挙げる。

＜法大＝２勝＞１回戦は８回に勝ち越しを許したが、その裏代打木本が逆転の２ラン。２回戦は村田が５安打完封。打線も９回に２点を追加して振り切った。

＜早大＝２勝＞１回戦は３本塁打など17安打、15点を奪って圧勝。２回戦は１回に３点、終盤も追加点を挙げ快勝。第６週で戦後初となる３季連続、43回目の優勝を決める。

＜立大＝２勝＞１回戦は２回、直井の先制打で挙げた１点を村田―蒔田のリレーで守り先勝。２回戦は17安打、11得点で圧勝。勝ち点５の完全優勝で締めた。

ベストナイン５人

▽投手　村田賢一（９票＝初）３勝ながら防御率0.80の２位。45回投げ四球はわずか５の精密機械

▽捕手　小島大河（７票＝初）今季からレギュラー。打率.282、２本塁打、７打点。打点はすべて勝利に直結、投手陣もまとめる。

▽二塁手　堀内祐我（満票＝初）慶大４回戦から１番打者に。打率.340は７位。守備も貢献して攻守でチーム引っ張る。

▽三塁手　上田希由翔（11票＝一塁で１回も含め３回目）打率.372（３位）３本塁打、12打点。主将としてもチームを鼓舞。

▽外野手　飯森太慈（満票＝初）初の首位打者。９得点、７盗塁と２番打者の役目果たす。守備も俊足生かし投手を助けた。

萬谷マネ　立大１回戦で
史上２人目のベンチ入り

立大１回戦でベンチ入りした萬谷マネジャー

…４年生の萬谷天音マネが立大１回戦で明大では２人目となるベンチ入りを果たした。試合は１―０で勝利し「緊張の連続でした。勝ってくれて本当にうれしい。私にとって初勝利です」と興奮気味に話した。選手も心得たもので、ウイニングボールを萬谷マネにプレゼント。「大事にします」と最高の笑顔をみせた。

４年生コンビが盛り上げた

…出番は少なかったが、ベンチで盛り上げ役として活躍したのが斎藤、野波の４年生コンビ。２人は下級生が力を出せるように雰囲気作りやピンチでも元気に選手を励ますなど目に見えない貢献をしてくれた。田中監督も「野波と斎藤は本当に必要な選手。ベンチで声を出してくれて、盛り上げてくれる。こういう選手がいてくれるのが強さの要因になっている」と控え組の２人の貢献を称えていた。

700人が3連覇祝福

7月15日in新高輪プリンスホテル「飛天の間」

昨春からの戦い映像で道のり堪能

野球部の「3連覇記念祝賀会」が7月15日、港区の新高輪プリンスホテル「飛天の間」で行われ、関係者ら700人が駆けつけた。

OBにプロ&アマ野球関係者、大学、父母ら会場はお祝いムード一色。日米大学野球で優勝を飾った上田主将ら日本代表4人も当日羽田空港から会場に直行。代表のジャージー姿で元気に挨拶して大きな拍手を浴びた。

昨年春から今年春までの戦いの映像が流され、3連覇への道のりを堪能。活躍した選手たちの姿に大きな拍手が起こった。ただ大学選手権の決勝で敗れたため田中武宏監督は「秋も同じメンバーでは勝てないと思う。夏のキャンプで控え組も力をつけレギュラーを狙っている。競争です」とさらなるレベルアップへ厳しい姿勢を見せる。上田主将も「秋は必ず優勝して神宮大会連覇を狙います」と話した。

昨年はコロナ禍で寮での祝勝会もできなかった。この喜びを再び。ナインの全員が秋への決意を新たにしていた。

監督「競争です」さらなる成長を誓う　田中

今年も４人のマネジャー、１人のアナライザー（情報分析）が入部しました。よろしくお願いします。

♠島抜　康介（日立第一）チームに貢献できるようがガムシャラに頑張ります。

♠丸尾　裕義（明大中野）チーム全員から信頼されるよう頑張ります。

♡酒井菜々花（竜ケ崎第一）人として成長しチームに必要な存在になれるよう頑張ります。

♡平野凪乃香（桐朋女子）部にとって必要な存在になれるよう頑張ります。

♡富澤なつみ（アナライザー＝高崎女子）チームに必要な存在になれるよう頑張ります。

≪2023年度　１年生名簿≫

ポジション	氏　名	身長	体重	投打	出身校
投　手	栗原　英豊	175	76	左左	松商学園
	外山稜太郎	177	63	左左	桜　美　林
	前田　悠槙	180	76	右右	玉　　名
	松本　　直	180	90	右右	鎌倉学園
	三浦　心空	174	76	右右	東　　邦
	山内　優平	172	68	左左	長　崎　西
捕　手	河原﨑琉衣	172	82	右右	掛　川　西
	福原　聖矢	168	72	右右	東海大菅生
	松本　哲郎	169	69	右右	大森学園
一 塁 手	内海　優太	185	85	左左	広　　陵
	小島　大地	181	85	右右	明大中野
二 塁 手	津田　　基	178	72	右左	近　　江
	友納　周哉	170	65	右左	福岡大大濠
	檜村　圭吾	178	81	右右	成　　田
三 塁 手	田中　陽貴	176	78	右右	明大明治
	内藤　大翔	176	86	右右	天　　理
	八谷　晟歩	170	80	右右	浦和学院
遊 撃 手	岡田　啓吾	176	75	右左	前橋育英
	光弘　帆高	178	80	右左	履　正　社
外 野 手	岸本　一心	170	75	右左	横　　浜
	榊原　七斗	173	75	左左	報徳学園
	番場　大翔	180	80	右右	日大鶴ケ丘
	若狭遼之助	176	78	右右	星　　稜
アナライザー	富澤なつみ	154			高崎女子
マネージャー	島抜　康介	175	67	右右	日　立　一
	丸尾　裕義	174	70	右右	明大中野
	酒井菜々花	158			竜ケ崎一
	平野凪乃香	163			桐朋女子

杉下先輩、黒木先輩が逝去

07年、中日春季キャンプで川上憲伸（左）にアドバイスを送る杉下氏

〝フォークの神様〟といわれ、野球殿堂入りも果たした杉下茂氏が6月12日、間質性肺炎ため都内の病院で死去した。97歳だった。杉下さんは戦争から復員後、いすゞを経て明大の旧制専門部に入学。専門部の3年間を終え49年に中日に入団。3年目の51年には28勝を挙げ、中日初の日本一にも貢献した。通算成績は215勝123敗。現役引退後は中日、阪神で監督を務めた。

長らく中日の臨時コーチとして沖縄キャンプに帯同、川上憲伸、柳裕也ら明大の後輩もお世話になった。趣味のゴルフは90歳になってもラウンドし、東京六大学のOBたちと旧交を温めた。エージシュート（年齢以下のスコアで回ること）を何度も達成し、OB仲間を驚かせた。

また、53年（昭28）の秋季リーグで戦後初優勝を果たしたときの主力だった黒木弘重氏が5月17日に亡くなった（享年90）。黒木さんは高鍋から明大に入学。秋山―土井の黄金バッテリーと同期で、主に一塁手として活躍。在学中に3度優勝を経験した。54、55年の全日本大学野球選手権連覇に貢献し56年に卒業と同時に大洋（現DeNA）に入団して活躍した。

島岡吉郎物語　～大学監督編～

86年秋、優勝パレード後に戸塚主将（現助監督）が天皇杯を掲げ、島岡監督と喜んだ

〈前回まで〉監督就任で駿台倶楽部、部員の退部など大騒動となったが、島岡の熱意に動かされ支持者も。苦難の末〝島岡丸〟はスタートした。

花の27年組　昭和27年２月。藤井寺で30人の部員と100人を超える明大入学希望者による練習が始まった。大学生と高校生が３試合の練習試合を行っているが、すべて高校生が勝利。その中に秋山―土井のバッテリーがおり、後に〝花の27年組〟といわれる選手たちだ。

主力が退部し、若い選手を積極的に使う。同年春は４位、秋は３位、28年春は４位と少しずつ力をつけていった。しかし秋に向けてエース格の大崎三男が退部する事件が起こった。鹿児島キャンプ、３年夏の関西遠征のメンバーから外され、残留練習を休んだ。新人監督にとがめられると退部届を提出したのである。これを島岡は平然と受け取った。「チームの和を乱す者は必要ない」終始一貫して明大野球部に受け継がれる島岡の考えだ。

〝殴れ指令〟　大崎が抜け優勝は無理だと思われた秋季リーグ戦。東大に連勝したものの早大に連敗して勝ち点を落とした。神宮から戻っての猛練習。そして全員集合の号令がグラウンドに響き渡った。緊張で集まった選手たちを前に島岡は「ユニホームを着ていない上級生は前に出ろ」と叫んだ。そして「お前たちは悔しくないか。球拾い、打撃投手などチームのために全身全霊を傾けてくれた。だから悔しいはずだ。だから不甲斐ない奴らを殴れ」とユニホーム組を殴れと言い出したのだ。

化学反応が　ためらいもあったが、島岡の命令なのだ。「秋山一歩前に出ろ」その秋山のほおを先輩の鉄拳が飛んだ。殴る方も殴られる方も心の中で涙を流している。どう考えても理不尽な指令。だが変な化学反応が起こった。秋山を殴った坂本哲郎（元駿台倶楽部会長）は「あのあと、不思議とチームに緊張感と連帯感が生まれたんです」と振り返った。そしてリーグ戦は後半戦に突入していった。

＝敬称略＝

チアリーダー先頭に歓喜の優勝パレード

チアリーダーを先頭に神田周辺をパレードする明大ナイン

リーグ戦3連覇を祝って6月29日、千代田区神田駿河台の本校で優勝パレードと祝勝会が行われた。神田神保町周辺をチアリーダーを先頭に行進。関係者も加わって明大応援歌の流れる中、歓声を受けて笑顔で行進した。本校に戻り関係者、ファンの前でV3を報告。山本野球部長、田中監督らが挨拶に立ち、会場から大きな拍手が起こった。ユニホーム姿の選手たちは笑顔の中、最後は4連覇に向けて表情を引き締めていた。

◇野球大会　関西支部（竹内圏会長）は中学硬式野球交流戦、第10回「夢 MEIJI CUP」を3月18日から開催。３日間、姫路市「ＷＩＮＫ球場」でボーイズ、リトルシニア、ヤングの３団体から推薦された32チームが参加して熱戦を展開、三田リトルシニアが優勝した。多くのＯＢが運営に参加し大会を支えた。

◇表彰　長年、高校野球の発展に貢献した指導者（部長含む）に贈られる育成功労賞が高野連から発表され、本間茂裕（68、写真）、横山真哉両氏（60）が選ばれた。本間氏は74年に岩見沢西から入学。打撃を生かし主に一塁手として活躍した。卒業後は地元北海道に戻り本別を皮切りに知内まで４校で監督を20年間務め高校球児を指導した。横山氏は82年に高知・中村から入学。学生時代はデータ班として活躍。１学年上で当時捕手だった善波達也前監督は「横山と上野（現審判員）の２人が他校のデータをしっかり集めてくれ非常に助かった」と懐かしそうに話した。横山氏は母校や宿毛、高知工などで部長、監督を務め17年のセンバツでは21世紀枠で中村の監督として甲子園の土を踏んでいる。

1メートル63の小兵がルーティンばりの大ジャンプ!!

飯森の覚醒

首位打者を獲得して胴上げされる飯森（右）（上から）打席前のジャンプはすっかりファンに浸透　打撃フォーム

六大学史上初!!リーグ戦＆全日本でW首位打者

1メートル63の小柄な男がでっかい仕事をやり遂げた。2番打者としてV3に貢献した飯森が打率・426（47打数20安打）で初の首位打者を獲得。さらに全日本大学野球選手権でも打率・500（14打数7安打）で首位打者。リーグ戦と全日本でダブル首位打者は六大学では史上初の快挙。〝努力は必ず報われる〟を結果で示した。

「強く振れ」指導

これほどの上昇曲線を描いた選手は珍しい。昨年春に代走要員として神宮デビュー。秋はレギュラーを獲得したが打率・225。9盗塁が光る内容だった。

しかし冬を越え1メートル63の小柄な男はたくましさを身につけた。全試合に出場し打率・426。リーグ戦で唯一の4割越えをマークし、念願だった首位打者を獲得したのだ。「練習を一番やったと思ってます。昨年までは当てるバッティングだったのを、監督からも強く振れと指導されて振るバッティングになった。それがよかったと思う」三振は13と増えたが、それも振った証拠。誰もが認めるスピードスターとなった。

2番打者はバントや進塁打など「つなぐ」役目が多い。自己犠牲を強いられる打順での首位打者は価値がある。東大から法大までの3カード通算は・322。しかし残り2カード4試合で16打数10安打を記録して一気に頂点に立った。

最終の立大2回戦。試合前の時点で打率は首位に立っていた。同僚の上田も迫っていた関係もあってスタメン2番で出場。試合直前「絶対打ちますから」と言ってグラウンドに飛び出していった。2打席凡退。打率を下げハラハラさせたが、ここから3打席連続でヒットを放つ精神力。3連覇の立役者の一人となった。

指定校推薦で入学「通用するのか？」不安抱えて入部も…努力と根性で主力に

指定校推薦で入学、当初「通用するのか？」と不安を抱えて野球部の門を叩いたが、努力と根性で主力にまで這い上がった。全日本でも打率・500をマークしてダブル首位打者。「決勝で負けて悔しさしかない」と笑顔はなかったが、リーグ戦＆全日本で連続首位打者を獲得するのは東京六大学では初の快挙だ。50メートル5秒台の足もあってプロのスカウトからも注目され始めた飯森。打席前のルーティーンでもある〝その場ジャンプ〟のように、秋に向けてさらに高みを目指していく。

♤飯森　太慈（いいもり・たいじ）
▽生まれ　02年７月26日東京都東村山市出身の21歳
▽野球歴　小学校１年から野球を始め、久米川ファイターズ（軟式）、中学は東村山中央ボーイズ（硬式）でプレー。佼成学園では西東京大会準優勝が最高
▽好物　ミートソースパスタ
▽好きなタイプ　一途な女性
▽座右の銘　準備力
▽好きな球団＆選手　西武と中島裕之（巨人）、ヌートバー（カージナルス）
▽チームの超仲良し　藤江星河
▽今季の自己採点　80点。日本一になれなかったことと、盗塁数が減ったため
▽家族構成　両親と妹（２歳下）の４人家族

紙面編集　齋木駿

宗山　４季連続㊥３割以上逃した

㊥…首位打者の先輩・宗山が打率.294に終わり４季連続の３割以上を逃した。今季は開幕から調子が上がらず、最終戦の最終打席前まで３割ジャストだったが、死球を避けた動作がスイングと判定され三振に。「ぼくが打たなくてもチームが勝てばいい」と守備では再三ピンチを救う美技をみせて貢献した。首位打者争いの同期・飯森にも「逃げたら負けだぞ」とアドバイスしてアシストした。ベストナインも３季連続でストップ。田中監督は「みんな宗山が不調というけど12試合で15安打している。大したもんです」と評価。大学日本代表にも２年連続で選ばれ、秋こそ首位打者奪還を目指してスタートを切る。